

広島大学

令和 8 年度一般選抜(前期日程)・
総合型選抜外国人留学生型 2 月実施

解答例・出題の意図等

科目名：

現代の国語・言語文化・論理国語・文学国
語・古典探究

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

【出題の意図】

第一問は、論理的文章についての問題です。今年度は曾我亨「自助努力を否定する社会」の文章を題材としました。この文章では、牧畜民ガブラ社会の「信託」のあり方を通じて、近代資本主義では自明となっている「自助努力」について相対化する視座が提出されています。筆者の主張を正確に把握する読解力、思考力とそれを的確にまとめる表現力を問いました。

第二問は、古文についての問題です。今年度は歌論書『正徹物語』を題材としました。まずは、古文の基礎的な語彙・文法・文学史の理解を問うています。加えて、実例をあげて説明がなされている筆者の和歌表現における理念について、正確な読解とそれを的確に説明する力を問いました。

第一問 解答例

問一 a 慈 b 規範（軌範） c 利潤 d 尊厳 e 委

問二 ラクダの受託を望む者が、何年にも渡って繰り返し手土産を携えて所有者を訪れて預託を要請し、所有者に誠実さを認められて受託を許されるという過程。

問三 信託されたラクダの子孫を他者へ二次信託することが繰り返し返され、所有者を起点とする預託者と受託者の人間関係が連鎖的に多数生じているということ。

問四 飼育しているラクダがかんばつや疫病、敵対する牧畜民の略奪などにより全滅したとしても、他人に預託していたラクダ

を元手に、家畜群を再構築できるといふ点。

問五 神が働きかけている者とは禁欲的な生活態度や勤勉な職業生活という性質を持つ者であると考えており、善行によって、このような性質をみずから備えていることを意識できたため。

問六 他人の助けを頼りたくない

問七 怒りの感情を抱いた相手を告訴すること。

問八 近代的思考においては、自助努力は自明であり、これを行わない者は怠惰で不道德とされ、自助努力によって個人の主体性が回復できるとされるのに対し、ガブラ社会に暮らす人々の思考においては、自助努力は放棄され、他人の助けを得ることが重視され、個人の主体性は他人の助けをかりることで回復できるとされる。

第二問 解答例

問一 ①完了の助動詞「たり」の連体形の一部 ②動詞「おぼゆ」の連体形の一部 ③形容詞「良し」の連体形の一部

問二 ア 「これこそ見事に詠みました」と思える歌である イ 心情のない物に心があるように詠むのが和歌の常であるので

ウ 白く降り積もった雪明かりで夕方とも分からないので エ 動けないでいる趣があるので オ 今はもう待つまいと思うわが身であるけれども

問三 ほんとうは雲の足跡は無いけれども、「跡なき雪」といえば、雲の足跡の意も含むから。

問四 エ

問五 1 古今和歌集（古今集）

2 ことばでは表現されていない余情がある歌である。

問六 歌に続く「さてどうしたらよいか」という心情を言葉にしていないから良い歌である。

問七 ことばで描いた世界から言外の風情を思わせる歌。

その歌で最も言いたいことを詠み込まず、余情がある歌。

第三問 出題意図

高等学校における漢文学習の到達度を評価するために、南宋の洪邁『夷堅志』（夷堅丁志）の一節を題材にして出題した。題材の「王従事の妻」は、西安の宰の宴席で出された料理を機に、王従事がさらわれた妻と再会する話で、末尾に洪邁の評が付けられている。

解答に際しては、王従事の妻がさらわれてから再会に至る話の流れが正確に理解されていること、両者の再会における西安の宰のふるまいが「賢」と評される理由が理解されていることが求められる。

第三問解答例

問一 aすでに bつひに(ついに) cけだし dひそかに eつひに(ついに)

問二 A(書き下し文)復た尋ねべからず

(日本語訳)もう二度と探し出すことはできなかった

B(書き下し文)尚ほ敢へて錢を言はんや(尚お敢えて錢を言わんや)

(日本語訳)どうしてお金のことまで持ち出したりしましうか

問三 食事で出されたスッポン料理が生き別れた妻の作っていたものによく似ていて、その妻のことを思い出したから。

問四 ウ

問五 ア

問六 b↓g↓a↓f↓e↓c↓d

問七 女の身元をよく調べずに側室としたことを自分の落ち度として、その購入の代金も求めずに、王従事の妻を夫の元に返した事。
(58字)